

特定非営利活動法人アサザ基金 第24期 活動報告

2022年4月1日～2023年3月31日

世界の至る所で既存の仕組みやシステムの機能不全が顕在化しています。問題の原因へのアプローチが不十分なまま、対症療法的な制度の制定やシステムの普及ばかりが目立ちます。

自分たちのあり方を真剣に見直すことなく、技術革新やイノベーションといった言葉に踊らされ、現状維持の発想から脱却できないまま、世界を取り巻く状況は悪化の一途を辿っているようです。

このような状況の中で、思い出されるのは田中正造が残した言葉です。足尾鉱毒事件と真摯に向かい続け、最後まで地元住民と共に問題解決に取り組んだ彼は、「造るに非ず、除くにあり」という言葉を遺しています。問題の本質から目を逸らさず、原因そのものを除去することがなければ、真の問題解決はありえない。何かを造ることでその場しのぎの対症療法を講じて誤魔化してはならない！という言葉の意味が胸に突き刺さります。

2022年度も、アサザ基金は霞ヶ浦が抱える問題の本質にアプローチするために、流域で進む水源地の再生に向けて、地域に根ざした活動を通して、社会のあり方を変えるための試みを行なってきました。

○ 環境教育事業

今年度も牛久市教育委員会から委託を受け、年間を通して市内で総合学習を受け持ちました。流域外はすべてオンラインでの授業を行いました。

●牛久市内におけるESD環境学習授業は、すべて対面で実施しました。牛久二小・向台小・岡田小・神谷小・奥野義務教育学校・下根中科学部など6校（44回 1904名）。奥野義務教育学校3年生は子ども達だけで校庭にBTを作り上げました。牛久二小4年生は校庭に班ごとにミニBTを作り観察授業に力をいれました。岡田小4年生、下根中科学部はバスで古民家を訪問、馬やヤギとのふれ合い体験や竹を切る竹林整備に汗を流し、里山での活動が好評でした。神谷小は学校に隣接する谷津田で投げ苗の田植えをしました。カワセミの里周辺に市の土木工事が入り、環境が様変わりしてしまったので、飯島がホタル等の生存を守るために現地で工事の要望をしました。中根小は夏休み土曜カッパ塾でトンボの観察とスケッチ会を実施しました。（親子20名）

●流域内では鹿嶋市立豊津小5年生6/9（7名）、玉里学園義務教育学校4年生7/21（30名）・7/27（30名）に湖とアサザの授業を実施しました。

●秋田県では湯上市立大豊小3・4年生を対象にハ郎湖の環境をめぐる授業をオンラインで実施しました。2/15（2回 65名）

●岡山県では、岡山エコサポートーズ小桐さんのコーディネートにより真庭市立中和小 5/18・7/11 岡山市立小串小 6/15・10/6 でオンライン授業を行いました。（4回 24名）

●NECキャピタルソリューションとの協働による「わくわく子どもの池プロジェクト」板橋区立北野小6/24・7/13・11/18はBT造成と授業。押上小4/20・5/31・6/1・7/14・12/14はオンライン授業を実施しました。（8回 719名）

霞ヶ浦の水辺の保全と再生事業

湖の生態系を脅かす水位管理の問題、逆水門の閉鎖、2011年原発事故による放射能汚染問題など霞ヶ浦を取り巻く問題を意識し続けながら様々な取り組みを行なってきました。霞ヶ浦本体で顕在化している問題の原因の大半は湖をめぐる社会のあり方、流域環境の変化にあります。問題の結果が現れた後でいくら対策を講じても限界があることを、私たちはこれまでの経験から学びました。流域に広く存在し複雑な背景を持つ社会問題への様々なアプローチを通して、より深く霞ヶ浦の保全再生に取り組んできました。

- 6/20 日立金属ネオマテリアル社員ボランティア（7名）が霞ヶ浦でアサザの植付をしました。
- 7/2 小美玉市内の少年サッカークラブと常陸小川ライオンズクラブ主催のアサザの植付け会に飯島、諏訪が参加し協力しました。
- 9/1 納場保育園の子ども達（27名）がトンボ公園でアサザの植付をしました。
- 大日本印刷はアサザの里親として、苗づくりに協力いただきました。
- 水郷トンボ公園は1998年の開園から24年を経過。絶滅危惧種のオニバスやミズアオイに加えて秋には彼岸花の咲き乱れる市民の憩いの場所となりました。昔ながらの水郷潮来の風土を再現する水辺の公園としてジャランボのメンバーが管理作業を引き受け、一年中きれいに整備しています。開園作業（4/16 16名）と閉園作業（11/10 17名）には当基金とジャランボPJメンバー、市の職員も参加し蕎麦がきや芋汁を楽しみながら作業を行いました。

○ 水源地保全事業

霞ヶ浦流域の主要3河川の水系に位置する牛久市、鹿嶋市、桜川市での水源地再生事業を中心に、将来の流域展開を視野に入れた取り組みを行なってきました。各水源地に古くからある集落の人々の暮らしに寄り添った形での事業展開を行い、過疎化高齢化など地域の課題への解決策の一つとして水源地保全再生事業を根付かせていく努力をしました。小野川水系牛久市島田集落に流域展開のモデルとなる拠点（古民家アサザカフェ）の整備を行い、地球環境基金の助成より倉庫兼馬小屋を建設しました。

企業との協働による体験型イベント、田植や稻刈は、人数制限をしながら感染対策を整えて実施しました。

- NEC 田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金（2010年～牛久市上太田）
田植 5/21 46名 稲刈 10/1 54名 月1回の達人さんの活動も復活 バケツ稻プロジェクトでは全国の社員さんに自宅でお米を育ててもらいました。350名
- 三井物産谷津田再生プロジェクト（2007～牛久市遠山）
田植 5/28 31名 草取 7/23 37名 稲刈 9/23 40名 酒仕込 2/18 30名
谷津田再生イベント 3/12 30名
- SUZUYOいいね！プロジェクト（2018年～牛久市遠山）
田植 6/4 15名 稲刈 10/8 12名
- かっぱん田プロジェクト（2010年～牛久市遠山）
久しぶりにラーニング生を2名受入ました。田植 6/12 10名 稲刈 10/2 13名
ラーニング生の活動最終日は、かっぱん田で育てたもち米で、餅つきをして楽しみました。
- ホギメディカル谷津田再生プロジェクト（2009年～牛久市奥原）
酒仕込みと田植はアサザ基金関係者で実施。草取からイベントを再開しました。
草取ホタル観察 7/9 71名 稲刈 10/22 85名 仕込み 3/11 33名
- UBS RICE Project（2008年～鹿嶋市山之上）
田植と自然観察会 5/22 40名 草取 6/19 50名 稲刈 10/9 70名
育てたもち米から揚げ煎餅を作り社員に提供しました。
- 12月、新規にSBI FXトレード(株)が仲間入り。2023年は古民家下の西の谷津田でもち米を育て、煎餅を作ります。3/18 小雨の中、谷津田で社員さんが踏耕を体験しました。（13名）

○ 耕作放棄地の活用

アサザの古民家に導入した馬や山羊の飼料を地産地消で販うことで、広大な耕作放棄地や放置竹林、手入れの行われなくなった里山への働きかけにつながることがわかりました。今年度も馬や山羊の飼料のほぼ100%を地元や流域から採取することができ、大量に発生する馬糞を堆肥にして再生した農地に還元しました。

○ 古民家を活用した環境保全と地域活性化

牛久市島田町の古民家では地球環境基金の助成による改修が進み、カフェやセミナーなどのイベントを開催できる環境が整いました。地元の方々にも参加いただき、ミニシンポジウムやコンサート、竹やアズマネザサを活用した籠作り講座などを行なってきました。

古民家の裏山に新しい馬小屋を作り、2階に子どもの居場所（秘密基地）を設置しました。

牛久市久野町のアサザシェアハウスには現在3人が入居中です。入居者がシェアハウス内に作られた卓球場で卓球教室を開いたり、有機栽培の野菜を販売したりと、過疎化の進む集落での新しいコミュニティ作りを進めています。

7月にシェアハウスのエアコン6台の室外機が盗まれ、テレビ朝日、日本テレビのニュース番組に取り上げられました。その後は防犯対策を強化しています。

- 竹細工講座 4/25 15名・5/23 12名・6/27 10名・7/25 10名・8/22 8名・9/26 8名
- アズマネザメカイ作り 2/14 5名・3/24 5名
- 第3回アサザ幼知縁 1/22 8名 第4回アサザ幼知縁 2/26 15名
第5回アサザ幼知縁 3/8 10名

○ 自然観察会などの自主イベント

コロナ禍だからこそ、少人数でも野外で自然を体験出来る企画や提案を心掛けました。

- オーガニックハロウィン（3回目） 落ち葉かき 10/30 80名
- 筑波大学生古民家見学と谷津田で田植え 6/8 8名
- 都内のご家族古民家見学と里山体験 11/27 5名
- 古民家見学と堆肥撒き体験 12/11 20名
- 古民家見学と竹林整備 生きものの観察 2/18 28名
- 古民家見学と里山体験 お誕生日会 2/23 29名

○ ボランティアや研修生の受け入れ

- 都内で一人暮らしをしていた青年を古民家に数ヶ月受入、家畜の世話等をしてもらいました。
- SONPO 環境財団のラーニング生2名を6月～1月まで受入、アサザプロジェクトの様々な活動を体験していただきました。
- 当基金会員さんが古民家下の谷津田での水路整備や古民家隣の神社境内の草刈りなどを自主的に取組んで下さいました。
- 田植えや稻刈りなどのイベント時には、地元の方々がボランティアでご協力下さり、盛り上げて下さいました。

○ 会報の発行

会報「あさざだより」68号（2022年8月）を発行し、会員の皆様や学校、関連企業などの関係者に配布し活動紹介に努めました。

○ ホームページ運営

イベント案内や現場からの活動の様子などが伝わるように努めました。

○ 講演、視察、ヒアリングの受け入れ

コロナで停滞していた社会にも動きがではじめ、アサザプロジェクトへの視察など交流も再開してきました。7/4 常磐大学の学生7名、3/13には香港からアサザプロジェクトに関心を持った若者たち25名が霞ヶ浦や古民家を訪れ、活発な議論を行うことができました。

講演や大学の講義等（4回）において代表理事の飯島がアサザプロジェクトの活動理念を紹介しました。

- ✿ ご寄附をありがとうございました。
2022 年度の寄付金総額は 18,940,141 円でした。会員の皆様、心ある支援者の皆様のご協力に感謝申し上げます
- ✿ イオンのイエローレシートキャンペーンの取組から、年2回（上期 27,400 円下期 29,500 円） 総額 56,900 円のご支援をいただきました。

アサザプロジェクトへの参加人数 2022/4~2023/3

環境教育事業	2,799 名
水源地保全事業	1,030 名
その他	375 名
計	4,204 名